

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年8月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104068
法人名	有限会社 健真
事業所名	グループホーム すずらんの家
所在地	鹿児島県鹿児島市平川町1547番地 (電話) 099-284-2655
自己評価作成日	平成23年7月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaken-shakyo.jp/kohyo
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成23年8月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・朝9時よりの雑巾掛け
- ・朝10時からのリハビリ体操
- ・洗濯物干しから取り入れ、たたみ迄の一貫して利用者で行なう
- ・病院受診の際は生活リハビリを考えて歩いて行く
- ・家族支援により外出(墓参り、病院受診、食事)
- ・天気の良い日の散歩(30~40分)
- ・アクティビティー
- ・台所又はホールにての食材のカット及び調理手伝い

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・ホームの近くには平川動物公園や錦江湾公園があり、周辺は桜の並木で自然に恵まれた場所に立地している。
- ・理念に基づいて「明るい人生・楽しい人生・笑顔のある人生・健康な人生・日々笑いのある人生」をモットーに利用者の継続した健康な暮らしができることを願い、その人らしさを発揮できるように支援している。
- ・職員は、ホームの理念を基に、自己評価の視点から課題を見つけ、自己研鑽に励んで質の高い支援を目指している。一人ひとりへの介護が行き届き、支援することに喜びや達成感をもっている。
- ・利用者は、介護されるだけでなく、自らもっている能力を日常生活の中やレクリエーションで発揮している。リハビリ体操や踊り・トランプ・かるた合わせ等、利用者を中心とした団樂ができています。
- ・地域との連携は、運営推進会議等を通して地域交流や地域住民の協力が深まりつつある。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	常に職員が理念を意識する様にホール、事務所に掲示し、利用者と共有出来る様、心掛けています。職員会議の場でも理念についての話し合いも行っている。	理念は、玄関やホール・事務所に掲示している。ミーティングや職員会議で日々の実践を確認しながら、職員間で共有して利用者本位の支援をしている。新任職員の研修でも理念を研鑽している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	代表者が町内会に入会しており回覧板にて行事も早く知る事が出来、行事にも参加したり、園内で行う敬老会、花見等に地域の老人会に来ていただく事が出来ました。	地域の行事や夏祭り・十五夜・運動会等、見学に出かけている。また、ホームやデイサービスの合同行事の敬老会や花見等には、民生委員や地域住民が来訪している。散歩の時には住民との会話や公園での交流があり、サマーボランティアでは、高校生とのふれあいもある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運家推進会議のメンバーに介護、福祉への取り組みも話し合い、老人会、婦人会、町内会で話し合いがまとまれば、その場に出向き認知症ケア専門士の有資格者が講演する様に取り決めております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度のペースにて会議を行っており、様々な意見を参考にさせていただき、その中からサービス向上に役立つ取り組みを実施しています。	会議は定期的に行っている。ホームの行事や自己評価・外部評価の報告を行い意見をもらっている。出された意見は検討してサービス向上に活かしている。また、地震の時の災害防止についても提案がされ、今後の課題となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市担当者の方とは、書類関係等で話し合い、地域包括支援センター職員とは空き情報等で連絡を取り合って協力関係を築いております。	書類提出や相談等で市の介護福祉課に出向き連携を取っている。また、地域包括支援センターとは地区グループホームの勉強会に毎月参加し、現状報告をしたり、相談等をして、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	前回の自己評価同様、管理者、ケアマネージャー、施設長、職員全員で勉強会を行っており職員全員が理解して拘束しないケアを行なっています。	日中、玄関の施錠はしていない。職員全体で身体拘束廃止の勉強会を行い、拘束しないケアに取り組んでいる。利用者が外に出たい気分の時は、茶を勧めたり、目先を変える工夫をしたり、一緒に出かけるなど、利用者の目的に合わせての支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特に会議のみでなく、常々職員間でも話し合っており、特に入居者外泊及び帰園後、入浴時が一番判明しやすく、万が一あった場合は家族に詳細を聞く様心掛けています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	自立支援はもちろんの事、後見人制度については、社長、施設長が毎週開催されている研修会に参加しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に具体的な説明をし、本人、家族と事前面談を行なっています。特に急変時対応を理解していただく様にしております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者の不満、苦情があった場合には管理者や職員は家族の方へ連絡し、家族の方の声及び意見を参考し反映させています。	家族の意見や要望は、家族が毎月来所される時に、声をかけたり、馴染んでいる職員が親しく聴くようにしている。出された意見は職員で話し合い、検討して運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	苦情処理委員会を設け、玄関に意見箱を設置して投函していただく様にしております。電話、手紙にても受け付けをしております、直ちに委員会を開き、又個人情報保護の基に、速やかに対応しております。	運営に関する意見や提案は、職員会議やミーティングの時にみ出されている。利用者や勤務のことなど言いやすい環境にあり、出された意見等は、速やかに対応して運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の離職を無くする様努めています。勤務状況もなるべく本人希望休みも聞き入れ、毎年少量ではあるが昇給も行なっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設内勉強会、各方向からの研修、講習会に参加しており、報告書を提出させて発表の場を作りサービス向上を計っています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>谷山南部地区開催の勉強会に参加し、その内で同業者の方と話し合う機会もあり、お互いの困難事例、その他を学ぶ様しております。又、南谷山地区GH、宅老所で連絡協議会を立ち上げ様々な意見交換をしております。</p>		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族と電話及び来所され相談がある場合にご本人より困った事、困っている事をよく聞き取り、不安な事は何かを受けとめる様に努めています。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族来所時、又は電話にてよく話し合う機会を設けて、困っている事に傾聴し、ご家族の不安を取り除く様、機会を設けています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族がサービス利用で一番何を求めているかを本人、家族と十分な話し合いをし、その中から求めているものを見極め、様々なサービス利用（提供）を考慮している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	台所での調理、生花、踊り、利用者様の生活の知恵等、いろいろ考えてもらう事が多く、職員も折紙を教えたりとお互いが協力しあっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のいろいろな思いを面会時に聞き取り、お互いの悩み事を話し合っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた地域と離れた人は電話、手紙、葉書等で交流を計る様支援し、家族の協力も得られています。	隣接するデイサービスの馴染みの友だちとゲームを楽しんだり、家族と共に墓参りに行ったりしている。また、電話や手紙・はがき等で交流ができるように支援している。髪のカットには馴染みの美容師が訪問する等、関係性を大事にして支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩に出かけた時、少し歩行が困難と思われると手を繋いで歩いたり、互いの部屋で話をされたり、があり利用者の支え合いは出来ています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用停止していても、ご家族にはいつでも相談にのれる様、家族との関係は保っている。又、他施設等移動がある時も受入れ施設と連絡を密にし話し合いもしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望、思いを聞き取り利用者本位のケアが出来るよう努めています。ケアマネージャーの下、管理者及びなじみの職員も聞き入れに同席し密に希望意向を聞き入れています。聞き入れ困難な場合はご家族よりお話を聞いています。	ケアに関わっている職員は利用者と時間をかけて話し合っ、思いや意向の把握に努めている。また、日常のケアする中で、会話や言動に気配りして把握している。困難な時は家族に聴いたり、動作や表情からくみとっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴をご本人、家族から聞き取り、職員全員で把握し記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人、一日の過ごし方は様々であり、その利用者にあった生活が出来る様、アセスメントして把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議又は、スタッフカンファレンスを開催し、本人、家族にも同席して頂き意見を出しあい介護計画を作成している。	本人・家族・関係者とカンファレンスを開き、介護計画を作成している。入居後、1～2週間でモニタリングして3ヶ月毎に計画の見直しをしているが、状況に応じて随時、計画を見直しカンファレンス・モニタリングして、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者本人の言葉を用いた記録を行い、本人の思いに気付く様、職員同士情報を共有しながら見直しをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院支援（病院受診）、自宅帰省、墓参り、本人家族の希望があれば出張マッサージ、鍼等に状況に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア参加によるレクリエーション、消防避難訓練、文化施設への訪問、地域の町内会長、民生委員から地域の情報や助言を貰っている。又、警察、消防には消防訓練を含め出来る限り来園していただく様にしております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人の心身状況を考慮した医療機関を受診していきながら適切な医療を受けられる様にしてしている。	利用者のかかりつけ医への受診を支援している。当ホームの主治医とは常に連携し協力関係にある。常に適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医である敬愛クリニックに月2回以上の受診をし、なじみの関係を築き看護職員、介護職員と日常の健康管理をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院された後にも病院に出向き担当医師の説明を受けその情報を受け、家族の希望に沿えるよう相談にのり、いつでも戻れる様に連携している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>利用者の心身状況を日頃より報告しており重度化した場合の対応については本人、家族、医療機関と話し合っている。又、家族に対して重度化になった場合の対応に対してアンケートにて解答をもらっています。</p>	<p>重度化や終末期のあり方について家族の思いをアンケートで取っている。緊急や看取りの対応は医療機関への搬送を希望する意見が多い。職員も方針を共有している。看取りの経験もある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>施設内にて救急蘇生等の研修を行なっています。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>昼間、夜間で想定し避難訓練を行なっている。運営推進会議開催の中で災害時には地域住民の方々の協力を得る様に働きかけを行なっている。</p>	<p>年に2回、防災訓練を昼夜間を想定し実施している。迅速に通報や誘導が行なわれるように、机上に通報装置機や避難経路が示されている。スプリンクラーも設置している。備蓄は乾麺・缶詰・菓子類を用意している。</p>	<p>災害時に地域住民に協力が得られるよう働きかけをしてあるので実質的な協力体制が確立するのを期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>個人情報に関する契約を家族及び職員と取り交わしています。誇りやプライバシーを損なわない声かけ等で対応しています。記録も適切な取り扱いに気を配っています。</p>	<p>言葉がけや個人情報など、プライバシーや人格を傷つけないように支援している。会話する時なども、利用者だけでなく回りの人にも気を配り、細心の注意をしている。記録の保管は施錠して適切な取り扱いをしている。個人情報に関する誓約書を職員は提出している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>常に本人の好みの物、希望することを問いかけ、本人の意思決定を重視している</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日常の流れに利用者を沿わせず、一人一人のペースによって本人の望む生活を支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	出来る限り自分の好みの洋服が着れる様、本人に問いかけ選んでもらっている。散髪や頭髪染め、等々も本人の希望に合わせている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、片付け、箸の並べ、味見、お茶等、行なっている。出来ない方には職員が手伝っている。	利用者の個々の身体機能に応じて準備・調理・片付け等、職員と共に行っている。好みを聴いたり、食材に変化をつけ、アレルギー食品にも配慮し献立を考えている。誕生会には手作りケーキを作っている。職員と共にとる食事は家族的な雰囲気である。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶や水は常時飲む様に工夫し食事時は、毎食摂取量をチェックしている。水分補給に関して密に利用者とコミュニケーションをとり、その度に声掛けをし、水分補給している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシを使用しての口腔ケアの自立支援及びポリデント等による義歯洗浄を週1回行なっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	基本的にオムツを使用せず、下着も布パンツを使用、排泄は昼夜共にトイレを使用してもらっている。状態によってオムツ使用もあるが、夜間のみ使用し、昼間はリハビリパンツにてトイレ使用してもらっている。	状態によって夜間のみオムツ使用の利用者もいるが、オムツに頼らない支援をしている。日常リハビリを取り入れ、オムツをしないケアを基本に、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜等、食物繊維の含有を摂る様にし、水分をこまめにする様にしている。又、軽体操を毎日行い排便確認をして便秘による体調不良を防ぐ様にしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的に週3回の入浴とし、月水金及び火木土と入浴日を定めているが、失禁時、体調不良時を考慮し、その時の利用者合ったタイミングでいつでも入浴出来る様努めている。	基本は週3回の入浴であるが、利用者の希望に応じて、いつでも入浴できる。風呂上りには好きな服を自分で選んでいる。また、入浴を嫌がる利用者にはトイレ後に入浴をすすめたり、入浴の時間を変えたりして、利用者のタイミングを捉えて個々に応じた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決まっているが、それぞれ好きな時間に居室に行かれ入眠されている。休憩に関してもご自分の好きな時、休息されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が処方されている薬の表を作成し、介護日報に綴り、職員全員が理解し服薬支援を行っている。又、変化があった場合、主治医と連絡を取り合い服薬支持をおおいでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方には雑巾がけ、洗濯物干し、取り入れ、調理、皿洗い等の役割があり楽しんで行なわれている。草取り、生花、水墨画、散歩等その方々の生活歴、趣味に活かした生活を支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は散歩、庭の手入れ、ゴミ出し等戸外に出る機会が多い。又、隣接するデイサービスと合同で園外散歩にも行かれる。	日常的には周辺の公園等に散歩に出かけることを支援している。日頃、行けないような場所には、隣接するデイサービスの利用者と一緒に、おどりの会に出かけたり、家族の協力を得て、木市や日帰り温泉・墓参り等の外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で財布を持たれる方もおり、家族の同意の下で自己管理されている。買い物に出かける事もあり、個々の能力に応じ個人で財布を持たれ家族同意の下で管理して頂く。又、利用者の希望があればスタッフ同行で自由に買い物ができる様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話をかけたい希望があれば、いつでも事務所よりかけていただく。葉書や手紙、年賀状等も書いてもらっている。又、手紙、年賀状も相手の方より頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井からの採光や窓からの外の様子から今日の天気わかり、山からの季節感も感じられる。横にはJRの線路があり電車の音があり生活感も感じられる。ホーム内で生花や季節にあった装飾品を採り入れている	玄関から入った時に、清潔な明るいホールがあり、天窓から採光が配慮され、天気や季節を感じることができる。共用空間は整理整頓されている。利用者の行事の集合写真や花などが飾られて、居心地よく過ごせるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	肘掛け椅子が並んでいる所で腰掛け仲良く語ったり、ご自分の居室に招かれ畳ベッドの上に腰掛け、お話されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンスやベッドは備品であるが、他の物は本人の好みの物が持ち込まれダンス、ベッドの位置も家族と話し合いながら自分が居心地よい様に工夫されている。	居室入り口に、自分の部屋が分かりやすいように、本人の写真が飾ってある。居室には、家族の写真・本・テレビなど、馴染みの物があり、居心地よく過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フローア全面に手擦りを設置し、段差無くバリアフリーとなっている。トイレ、風呂場、浴槽内にも手擦りを設置しており自立出来る様に工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない